

中学生の部 最優秀賞 内海中学校3年 大間知^{おおまち}花南^{はな}

四国防災八十八話 第51話 救ったのは人のつながり

人とのつながり

2001年の高知県西南部豪雨を体験した地区。大月町では、総雨量は577mm、24時間雨量は520mm、1時間最大雨量は110mmを観測する記録的な大雨でした。しかし、この地区では死者・行方不明者が出ずにすみました。なぜだろうと読み進めると、人々がつながり合い、声かけをしたことで犠牲者がゼロとなったのだとわかりました。

この話を読んで一番に思い浮かんだのは、西日本豪雨災害です。私が住んでいる地域は被害がありませんでしたが、近くの吉田町では死者が出る大きな災害になりました。私はこの様子をテレビで見っていました。すると、すぐに、たくさんのボランティアが吉田町に集まりました。愛南町の人も参加したそうです。愛南町の学校、宇和島市の学校でも、何かできることはないか、少しでも助けになればとさまざまな活動が行われました。

このように人々が支え合っている姿、前向きに復興していこうとする姿を見て、私も頑張りたいと思い、行動を起こしました。私が所属していた学級委員会では、西日本豪雨災害への募金活動を行いました。募金活動をどのようにやれば効果的か、募金で集めたお金はどのように渡せば効果的か、委員会で話し合いをしました。この活動は自分たちだけが満足すればいいのではなく、受け取る相手の人のためにならないといけないからです。そんな思いを込めて行った活動ですが、最初「募金お願いします。」のひと声をかけるのにとっても勇気がいました。しかし、被害に遭った人の少しでも役に立てるといいなと思い、募金を集めました。私たちが募金を集めていると、たくさんの人が募金をしてくれました。集まったお金を見ると、少しでも被害に遭った人たちの役に立ってほしいという気持ちがたくさん込められていることに気がきました。困ったときにはお互い助け合う、ここでも人と人がつながっていると感じました。

このことから、人と人がつながり合うこと、そして、誰かのために何かをすることは素敵なことだと思います。いざというときの備えとして、私たち、人という素晴らしい備え。この備えを万全にすることが、災害の被害を少なくし、たとえ被災したとしても、前向きに行動できる人を増やすのだと思います。これから、私は、友だちや家族を大切に、地域の人とコミュニケーションを積極的に取りたいと考えています。普段からつながり合うことで、いざというときに支え合える関係を作っていきます。